



АУДИТОРИЙ МЕРКУРИ
1962

House

雨の日に・・・

夜半になって、思い出したように雨が降りはじめた。古くともろくなりかけた屋根に容赦なく雨が降り落ちてくる。雨は屋根や窓を激しく叩きつけ、家を揺さぶっている。屋根を叩く雨音と、庇をつたって流れ落ちる水の音を聞くうちに、私は生家で聞いていた雨音を、思い出していた。昭和十三年に建てられたという古い家は、雨が降るとやはり、家が揺さぶられるようだった。黒い瓦屋根と板塀の家。壁は塗り壁で、小さい頃、悪戯して爪で引っかいていると、壁の中から藁が出てきて不思議に思った家。私はもう今はこの世にあるはずもないその家の中を、うろろと歩き回っていた。子供達に傷けられた古ぼけた壁は、ひんやりと手に冷たく、それでも優しい手触りがあった。壁伝いに家の真ん中にある急な階段を上がってみる。大きな八畳の部屋の床の間には、母が好きだった掛け軸がそのままにかけてある。その前にはまだ花の生けられていない花生けが、そして、その向かい側の桐の箆笥には、母が脱ぎ捨てたままの着物が、かけてある。

私の生家の記憶のままに、その家はあった。

私は夢中でその家を歩き回り、ひとつひとつ記憶を辿っていった。小さい頃は毎晩夜になると雨戸を閉めて、家族一つの部屋で眠った。朝になるとその建てつけの悪い雨戸を開ける音で目が覚めた。雨戸の隙間から朝日が差し込んでまぶしかったっけ・・・あの雨戸・・・私が大きくなる頃にはアルミ戸にかえていたはずだったけど、不思議なことに、家は私の小さな頃の記憶のままにあった。そして、私が一番好きだった古くて薄い板ガラスのガラス戸。それは、今は雨に濡れて、水のペールにおおわれている。私は小さかった頃のように、ガラスをつたって滴り落ちる水の流れを見つめていた。

.....ガラスの向こうに誰かがいる・・・私に来るのを待っていたかのように・・・あの影は私..... それじゃ、ここにいる私は、誰？ 本当に、私自身？・・・

COLUMN

鎌倉の猫事情 第五十八話

お隣の庭に白い可愛い花が咲きました。ブロックの塀越しに、細い枝がなんとも言えず可憐な花をいっぱいつけて、道に向かって差し出しています。夜、帰ってくると真っ黒な夜空に向かって丸くころころした沢山の白い花が、夜露に濡れて輝いて見えるのです。このところそれを見上げては、一人にっこり笑って私は家に戻るのです。去年まではなかったような・・・気づかなかったのかしら？ 通りの花屋さんで同じ花を見つけました。梅花うづき・・・とかなんとか・・・なんか、名前には少しがっかりです。

お隣の塀を通るたびに、クウはいるかな？ すみれは出てこないかなと思って見上げます。たまには、塀の上から「ニャウ」なんて声をかけてくることもあるのですが、このところしばらくは、二匹とも姿を見かけません。二匹ともすっかりお隣の居候として居座ってしまいました。ただ、クウは、あの全身血だらけにになった重いアレルギーが治った数日後、一度だけ家に帰って来たことがありました。体中が赤剥けにになったクウを抱えては獣医さんのところへ走り、お隣のご主人にお借りした鍵で、またお隣にクウを返した毎日。あの時は、私がカチッと鍵を開けて入っていくとクウは怯えて家の中を逃げ回り、なんとか首根っこを押さえ、ひどい時には必死で抵抗するクウを手や足を使ってゲージに押し込んで、獣医さんのところへ連れて痛い注射を打ってもらっていました。言葉のわからないクウにしてみれば、私のことを怖がるのは当然のことです。ですが、傷もすっかり癒えて、もうお医者にかかる必要もなくなりました時、私は急に寂しくなっていました。

今回の事件で、ゲーニーの攻撃に耐えられず家出したクウとすみれが、お隣で大切にされ幸せな暮らしをしていることが判明したことはよかったです。無理やりクウを連れ出して行く私を見るクウの目はいつも怯えていました。毎日あんなにひどいことをして無理もありません。私のことを恨んでいるんだらうな、クウが幸せならそれもしかたがないと、もの思いにふけりながら私は家の裏の通路を通って、どこかへ出かけようとしていた時でした。私が歩いて行こうとするその



目の前にクウが座っているのです。まるで、「ありがとう」と言っているかのように私のことを正面からまっすぐに見上げていたのです。クウは臆病で、家出をして以来、決して、この家に入ってくることはなかったのです。クウはわかってくれていたのです。私があんなにひどいことをしたのは、クウの傷を治してあげたい一心だったことを。私はクウに向かって、「うん、ありがとう・・・」と、心の中で返事をしました。するとクウは、ひらりと塀を飛び越えて帰って行きました。それ以来家の中でクウを見かけることはありません。

———— to be continued





FASHION

大正のモードと 夢二のファッション

「近代の西洋の服はなるべく生々しい肉体の線を露わすようになったが、日本の着物は、肉体を包み隠すように出来ているようだね。それに日本の服装は、服装それ自身がある美しさと風情とを持っているじゃないか(中略)何といてもしかし日本の着物には、それ自身独自の美しさがあるよ。娘が振袖をあげて打ちもかねた風情なんか外国にはないだろう。」

(竹久夢二「大正風俗二枚続絵」『女性』第五巻 大正13年5月)

夢二は着物姿の女性とその風情を愛し、その姿を沢山の作品に残しました。夢二はまた、自ら女性のファッションをコーディネートしたり、浴衣のデザインを提案しています。それほどファッションに関心を寄せていたのです。

現代の機能的、合理的なファッションの中に、少し乱暴なほど自由に艶やかな大正の彩りを、取り入れてみては如何でしょう。

✂ 古布・帯

明治藍染布団皮 新入荷 (90cm) ￥3000
 ミルクホールオリジナル半襟・帯揚 ￥800より
 裂き織帯各種 新入荷
 名古屋帯各種 ￥3000より 楽しい端布が沢山入りました。
 珍品! 戦争中の兜柄から、 大きき色々使い方色々、
 昭和初期のあてやかなもの 絞や、紬、銘仙、モスリンなど
 締めやすい現代ものなどなど 少し前の日本の布地。
 半幅帯 ￥2000より
 端布色々 新入荷

Milk Hall Times

ミルクホール30周年記念・1976～2006

ミルクホールタイムス 総集編

「鎌倉ミルクホールタイムス」発行

ミルクホール及び、鎌倉の書店にて販売中 ￥1800

ミルクホールのホームページでのお申し込みもできます。

HISTORY

KAMAKURA・・・場所の記憶 5 稲村ヶ崎

七里ガ浜の磯伝い、稲村ヶ崎古戦場・・・と歌われているように、鎌倉時代の最後にこの磯では激しい戦闘が繰り広げられました。鎌倉は海と山とに囲まれた自然の要塞です。軍勢を引き連れた新田義貞は当時まだ切通しのなかった稲村ヶ崎で、足止めされました。前は海の荒波、稲村の岬は軍勢を引き連れて越えることはできません。その時新田義貞は海に向かって、自らの剣を投げ入れ、祈りました。その祈りが届いて波は引いて行き、軍勢は引いた磯を歩いて渡り、鎌倉に入ることができたと言われています。今でも、これからの梅雨の時期などは大抵海が静かで、大潮の時には海がすーっと沖の方まで引いて、波打ち際を歩いて岬の周りを歩いて渡れるような日があります。そういう日には、稲村ヶ崎の人達は「その日はこんな風だったのだろうね」と話し合っています。新田義貞が海を渡った日は6月だったのかもしれませんが、そして、地元の人達がその日を待っているのには別の理由があります。普段隠れている波打ち際が現れると、そこには逃げ遅れたタコ残っていることがよくあるのです。バケツを逆さにして底にガラスをはめ込んだような形のタコ眼鏡と呼ばれるもので、海の底を覗きながら浅瀬を歩き回ると、時々立派なタコが拾えるのです。それは本当にのどかな光景です。稲村ヶ崎の海岸は、他にも他の鎌倉の海岸には見られない特徴があります。その砂浜は、よく見ると他の砂浜より少し黒い砂で出来ているのがわかります。稲村ヶ崎の砂には砂鉄が混じって砂が黒く見えているのです。真っ白い砂浜というわけにはありませんが、秋から冬にかけての夕焼けの眺めは鎌倉で一番美しい場所です。海の乱暴者たちもサーフボードの上で見とれる海に浮かぶ富士山と伊豆半島、大島までがパノラマに美しく赤く染まる風景は、神様からの稲村ヶ崎への贈り物です。



ANTIQUES

大戦を前に、暗く不安なはずだった 昭和初期の暮らし。
その暮らしは私達の想像とは違い、美しい日本の伝統が
息づく、生き生きとした生活でした。
そして終戦、貧しくとも未来への
希望にあふれた時代。

和洋家具
古陶磁・古民芸
アンティーク

昭和初期の、気だるさと活気がみなぎる
ミルクホールのアンティークをお楽しみ下さい

新入荷情報

♠ 和洋家具

明治から昭和初期にかけて
主に日本で作られた和洋家具

★★★大正ガラスケース新入荷

- ★★昭和初期文机 ￥23000
- ★★明治時代帳場筆筒二段式 ￥128000
- ★★大正時代水屋筆筒 ￥48000
- ★★昭和小学校机椅子set ￥23000
- ★★ガラスケース各種 ￥12000より
- ★★アンティークカフェチェア 特価￥10000より
- ★★昭和初期鏡台
- ★小筆筒各種 ￥10000より
- ★格子各種 ￥8000より
- ★明治文机 ￥12000
- ★本棚 ￥6800
- ★昭和茶筆筒 特価￥9800
- 昭和丸椅子新入荷・文机・ちゃぶ台
裁縫箱・卓上本棚ほか

♥ 古民芸

- ★衣桁 ￥4800
- ★箱各種 ￥4500より
- ★格子建具新入荷
- ★すだれ各種新入荷
- 大正漆器各種
糸巻き・



◆ アンティーク

★★明治・大正のガラス新入荷!

- 明治青色ガラス・乳白シェード
レース皿各種・切子各種・鉛ガラスなど
- ★夢二戦前絵葉書額入り ￥33000
- ★★ボストンバッグ・学生かばん
- ★★リタケコーヒーカーップ
- ★★アンティークライター各種
- ★映画スチール写真各種
- ★★昭和お菓子ピン各種
- ★レプリカ照明器具各種
- ★昭和銀行貯金箱各種
- ★キューピー人形各種
額絵・スタンドグラスなど

🚢 アクセサリー

- ★★ミルクホールオリジナル
携帯ストラップ各種
- ★★昭和初期のコンパクト
- ★アンティーク櫛かんざしセット各種
- ★クリスタルプレスレット
- ★薔薇ピアス・指輪・ペンダント入荷
- ガラス指輪・ネックレス・
アンティークビーズバッグなど



PHONE 0467-22-1179
e-mail/ info @ milkhall.co.jp

LIVE 6/17 Sat. pm 7:30

ハーフムーンのライブで、
MILK HALLのBAR TIMEを
お楽しみください

HALF MOONの音楽は
愛と平和を歌います。

by 琢磨 仁 (Jin Takuma)
琢磨 啓子 (Keiko Takuma)



♣ 古陶磁

- ★★★大正・昭和初期印判小皿新入荷
- ★★大正色絵各種新入荷 小皿 ￥300より
- ★★明治瀬戸小皿各種
- ★★明治印判銅版大皿・小皿
- ★★★好評につき再再度 入荷!
- 昭和20年代デッドストック四国砥部焼
鯨染付小皿・急須 *残り少なくなりました
- ★伊万里7寸皿各種
伊万里青磁そば猪口・皿各種
- ★明治丸谷絵皿・猪口
信楽大壺・常滑大壺
李朝白磁・青磁

